

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	R7年 12月 1日 ~ R8年 1月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	R7年 12月 1日 ~ R8年 1月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 20日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもがやりたいという事を優先的に行わせている事。遊びを通しての成長を心掛けている。	子どもの自発性を伸ばしつつ、こちらからも題材を用意し、好奇心を高めたり挑戦する心の育成をしている。出来るようになった際のレベルアップのものも提供したりしている。	園や学校にも生かせるスキルを高めていくとともに、社会性も育んでいきたい。そのために集団での活動を遊びを通して増やしていきたいと思っています。
2	多学年、異性問わず、みんな仲良くをモットーにしている。	「みんな一緒に」をキーワードに楽しく遊べる空間・環境づくりをしている。子どもたち同士でも同じ行動をすることでお互いの信頼関係や、社会性を学ぶ時間として活用している。	小さい子でも楽しめるイベントを考え、それを高学年がサポートする形が自然と出来ています。季節の催しや日本の風習などを学び、成長の機会になればと思っています。
3	全ての事に関して、一度体験・経験してみるというのを行っている。	危ないからダメではなく、危なくならないようにサポートしています。子どもたちの好奇心や能力を奪うことないように挑戦の場を与えた後、前向きな声掛けをしています。	挑戦するのが怖いということにならないように、楽しい・嬉しいと思えるような準備をより強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ人数の安定が図れていない事	子どもと長い時間関わっているスタッフが少なく、充実した支援がやや乏しい。色々な視点で支援が出来ると、成長スピードも上がるかなと思っています。	子どもが好きという方を随時募集している。保育士さんや教員免許をお持ちの方などに声をかけたり、掲載をして応募数を募っている。
2	子どものやりたいを実現できない時もある	子どもたちがスタッフと関わって何かをするというよりかは、玩具やお友達同士との遊びに頼っている時がある。	しっかり人員を確保して、スタッフの声掛けによってやる気を生み出したり、一緒にやって達成感を味わわせることができるとより良いと思っています。
3	親御さんが現状困っている事をあまりヒヤリングする機会がなく、家庭-学校-事業所の連携がやや乏しい事	スタッフの人数が全てです。人員を割くことが出来れば、その分時間をとって家庭での生活状況などもより聞くことが出来るかなと思っています。	子どもたちの成長に向けてやらないといけない動きを明確にして実行していく。現状いるスタッフだけでも、より子どもたちや親御さんへの時間を確保していく。